

2021年度(2022年3月期)決算 主な質問と回答

- Q. 受注高が前期比で大きく増加した背景は。
- A. 2021年度は、社会のデジタル化や脱炭素化を背景にエレクトロニクス関連を中心に好調に推移し受注高は過去最高を更新した。なお、2020年度に新型コロナウイルス感染拡大により投資が延期された分のリバウンド効果も含まれていると見ている。
- Q. 電子部品の調達難による影響・対策は。
- A. 世界的な電子部品不足により調達難が継続し、代替調達や設計変更などに取り組んだが売上高の拡大につなげることができなかった。引き続き製品納期の正常化に注力する。
- Q. 増収にも関わらず、営業利益が前期比で減少した要因は。
- A. 電子部品価格の高騰や代替品への設計変更費用の発生、生産効率の低下により原価率が悪化した。また、受注拡大に伴う活動費の増加や物流費の高騰により販管費が増加した。
- Q. 2022年度の環境認識は。
- A. 電子部品不足や中国ロックダウン長期化の懸念はあるが、IoTや次世代自動車など先端技術分野を中心に引き続き好調に推移すると見ている。
- Q. 2022年度は大幅な増益計画だが、利益改善の取り組みは。
- A. 2021年度は、受注は好調であったが電子部品不足により生産が滞ったため受注残が積み上がった。今年度は、電子部品調達と生産の正常化・生産能力の拡充に全力で取り組み、好調な受注を収益につなげていく。
- Q. 中期経営計画「プログレッシブ プラン 2025」の取り組みのポイントは。
- A. IoTと次世代自動車を特に重要な先端技術分野と位置付けている。
先端技術分野では、デバイスや機器の高発熱化や急速な温度変化における安全性・信頼性の確保や、試験品の大型化に対応した試験需要が増加している。
当社装置・サービス・技術を駆使し、これら先端技術分野の課題解決に貢献していく。

本資料は、決算に関する主な質疑応答の要旨を記載したものです。

本資料に含まれる将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予測したものであり、実際の業績などは今後の様々な条件・要素により異なる場合があります。